

国立大学法人東京外国語大学 第 88 回経営協議会議事要旨

- I. 日 時：2023（令和 5）年 6 月 26 日（月） 13：30～15：48
- II. 場 所：ハイフレックス形式（本部管理棟 2 階中会議室とオンライン）
- III. 出席者：(1) 委 員：井上委員、猪熊委員、寺田委員、來生委員、小林委員、
坂本委員、関谷委員、柄委員、林委員、大谷委員、
青山委員、成瀬委員、鈴木委員、川村委員、近藤委員
(以上 15 名)
(2) 陪席者：篠原副学長、中山副学長、菊池副学長、春名副学長、
大津学長特別補佐、巽学長特別補佐、三宅言語文化学部長、
渡部監事、桑原監事、田中総務企画部長、高尾学務部長 外
- IV. 審議事項：1. 2022 事業年度決算について
2. 2024 年度概算要求について
3. 令和 6 年度施設整備費補助金概算要求事業について
4. 授業料その他の費用に関する規程の改正について
5. その他
- V. 報告事項：1. 2023 年度年次計画について
2. 2022 年度年次計画実績報告書について
3. 第 3 期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について
4. 長期借入金について
5. シンボルマークの見直しとロゴタイプの制定について
6. 2022 年度卒業・修了者進路調査状況について
7. 経営協議会委員からの主な意見への対応状況について
8. 大学の近況等について
- VI. 懇談事項：1. 教育未来創造会議第二次提言に対する本学の対応について
- VII. 配付資料：1. 国立大学法人東京外国語大学経営協議会委員名簿
2. 国立大学法人東京外国語大学第 87 回経営協議会議事要旨（案）
3. 2022 事業年度決算について

4. 2024 年度概算要求について
5. 令和 6 年度施設整備費補助金概算要求事業について
6. 国立大学法人東京外国語大学授業料その他の費用に関する規程新旧対照表（案）等
7. 2023 年度年次計画
8. 2022 年度年次計画実績報告書
9. 第 3 期中期目標期間（6 年目終了時）に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）
10. 長期借入金について
11. 東京外国語大学 シンボルマークの見直しとロゴタイプの制定について
12. 2022 年度卒業・修了者進路調査状況について
13. 経営協議会委員からの主な意見への対応状況について
14. TUFs 新着ニュース 等
15. 教育未来創造会議第二次提言に対する文科省の対応について（国立大学法人学長・大学共同利用機関法人機構長等会議 資料より抜粋）

林学長から、議事に先立ち、配付資料 2 に基づき、前回の議事要旨（案）を確認願いたい旨、発言があり、これを確認した。

VIII. 審議事項：

1. 2022 事業年度決算について

林学長から、配付資料 3 に基づき、2022 事業年度決算について説明があり、審議の後、これを承認した。

2. 2024 年度概算要求について

林学長から、配付資料 4 に基づき、2024 年度概算要求について説明があり、審議の後、これを承認した。

3. 令和 6 年度施設整備費補助金概算要求事業について

林学長から、配付資料 5 に基づき、令和 6 年度施設整備費補助金概算要求事業について説明があり、審議の後、これを承認した。

4. 授業料その他の費用に関する規程の改正について

林学長から、配付資料 6 に基づき、国立大学法人東京外国語大学授業料その他の費用に関する規程の改正について説明があり、審議の後、これを承認した。

IX. 報告事項：

1. 2023 年度年次計画について

林学長から、配付資料 7 に基づき、2023 年度年次計画について報告があった。

2. 2022 年度年次計画実績報告書について

林学長から、配付資料 8 に基づき、2022 年度年次計画実績報告書について報告があった。

3. 第 3 期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について

林学長から、配付資料 9 に基づき、第 3 期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

4. 長期借入金について

林学長から、配付資料 10 に基づき、長期借入金について報告があった。

5. シンボルマークの見直しとロゴタイプの制定について

成瀬理事から、配付資料 11 に基づき、シンボルマークの見直しとロゴタイプの制定について報告があった。

6. 2022 年度卒業・修了者進路調査状況について

菊池副学長から、配付資料 12 に基づき、2022 年度卒業・修了者進路調査状況について報告があった。

7. 経営協議会委員からの主な意見への対応状況について

林学長から、配付資料 13 に基づき、経営協議会委員からの主な意見への対応状況について報告があった。

8. 大学の近況等について

林学長から、配付資料 14 に基づき、大学の近況等について報告があった。

X. 懇談事項：

1. 教育未来創造会議第二次提言に対する本学の対応について

林学長から、配付資料 15 に基づき、教育未来創造会議第二次提言の概要について、説明があった。

春名副学長、篠原副学長及び菊池副学長から、机上配布資料に基づき、同提言に対する本学の対応について、報告があった。

報告の後、懇談が行われた。委員からの主な意見等は次のとおり。

- ・帰国後も、本学との関係を保つことができるように、本学と留学生とのネットワークを構築してはどうか。
- ・現在、生成系 AI が隆盛しているが、同じような問題意識を持っている大学や研究機関と、共同研究を行うことで、言語教育のナショナルセンターとしての本学の新たな使命が明らかになるのではないか。
- ・留学生にとって、就職は重要な問題であるが、特に文科系の大学院の卒業生の方々の日本国内での就職は非常に難しく、解決する見込みは立っていない。留学生が日本国内で就職しても、日本の「会社文化」に合わず辞めるといったケースも多々あり、可能性があるのは、留学生が帰国後、日本企業の現地法人に就職するといったケースではないか。先進国であれば十分にメリットがあるように考える。
- ・留学生の日本国内で就職に際して、日本語能力が十分でない点が課題となっているのだとすれば、全体として日本に来る留学生への日本語教育を、本学が他大学から引き受けるといった意義があるのではないか。
- ・就職活動をサポートするために、職員のカテゴリーの留学生担当アドバイザーを置いているとの説明を受けた。自身の他大学での経験では、教授会構成員である教員職のアドバイザーを置いていた。企業や政府関係の様々な組織での就業経験を持つアドバイザーで、留学生に教える側の教員の議論を踏まえて、また、帰国後も留学生とコンタクトをとり続けるなど、うまく機能していた。本学も教員ポストを使うことも検討してはどうか。
- ・語学関係の留学は、数としては頭打ちになっているような印象があり、力を入れるとすれば、語学に加えて何を学ぶか、プラスアルファの部分ではないか。また、卒業生の中では、社会人経験を踏まえて、留学に行きたいというニーズもあり、リカレント教育の観点からも、検討することはできないか。
- ・当該提言の意義や目的に掲げられている事項は、本学が現在までに行ってきたことでもある。世界各国から留学生を受け入れて、また、学生も世界中に留学に行く。本学の強みは、世界中にネットワークがあり、日本語教育や英語による授業を実施していることにある。予算の要求に直接つながらなくとも、そのような強みを継続して実施することが肝要ではないか。
- ・言語だけでなく、世界各国の文化や社会制度や法制度、雇用制度の違いを踏まえることができるインターカルチュラル・コミュニケーターを養成することも、本学の大きな役割ではないか。

以 上